

斎藤清の作品を見ることが、
生活の一部になっていった。



《浄智寺 鎌倉》1972年 紙、木版

2025年度 斎藤清美術館特別企画展

コレクターズ2

episode

前期 2025.9.13[土] ▶ 10.26[日]

後期 2025.11.1[土] ▶ 12.21[日]

9:00~16:30(入館は16:00まで)

休館日 月曜日(ただし、9月15日・22日、10月13日、11月3日・24日は開館、9月16日・24日、10月14日・27日~31日、11月4日・25日は休館)

観覧料 一般510円(410円)、大学生・高校生300円(200円)、小中学生無料 ※()内は15名以上の団体の場合

主催 やないづ町立斎藤清美術館

後援 福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、エフエム会津、喜多方シティエフエム、只見川電源流域振興協議会、奥会津五町村活性化協議会、只見川ライン観光協会、極上の会津プロジェクト協議会

斎藤清
美術館
KIYOSHI SAITO
MUSEUM OF ART, YANAIZU

木目が



輝いている。



花瓶と鳥も印象的。

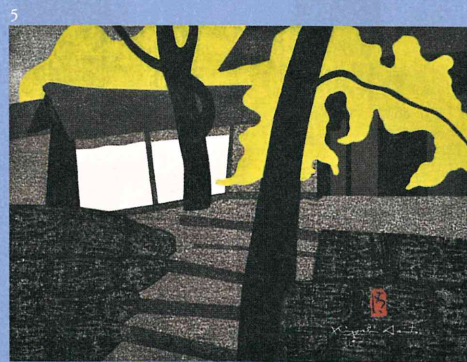


摺りの質感が素晴らしい。



涙のある

道化師の瞳のよう。



秋の境内に

入っていく心地よさ。

現在、中国地方で暮らす松島俊宏氏は、幼い頃から絵を描くのが大好き。ですが、絵で食べていこうとは思わず、あくまでも趣味として美術を愛好しながら、教職を勤め上げました。斎藤清という画家の存在も知らなかった30代の頃、ネットでたまたま見かけたのが、『浄智寺 鎌倉』。「山歩きを趣味にしていた自分にはいつまで見ても見飽きることがなく、却って魅力は増すばかりだった」以降、当時普及し始めたネットオークションに注目、海外に流出した貴重な初期作品を中心に、集めた斎藤作品は260点超を数えます。

また松島氏は、画家を深く知るために、作品のみならず関連文献や資料類もこまめに収蔵を重ねています。それらを渉猟し、人柄や生き様にも魅かれていったという松島氏。研究者的アプローチが培った鋭いまなざしで、対象に向けた画家の視線や想いをイメージから読み取り、理解を深めています。その見解は、斎藤清の専門美術館として作品の保存と調査研究に努める当館にも、はっとする気づきをもたらしてくれます。

本展では、当館収蔵品も合わせ、2回にわけてコレクションを紹介します。松島氏の解説とともにご覧ください。



神話的なイメージも重なる。



女性的な美しさ。

流れるような身体表現

版面へのこだわり。



斎藤清らしい

1. 《花と少女(3)》1971年 紙、木版
2. 《椿》制作年不詳 紙、木版
3. 《タヒチ(B)》1966年 紙、木版
4. 《猫と少女》制作年不詳 紙、木版
5. 《秋の二尊院 京都》1965年 紙、木版
6. 《摩周湖の幻想》1953年 紙、木版
7. 《仏陀(6)》1962年 紙、木版
8. 《庭》1963年 紙、木版

特別版！ギャラリートーク 私が斎藤清に魅かれた理由。

本展の見どころ、そして斎藤清への想いを語り尽くします。

9月13日(土)10:00～(講師：松島俊宏氏)

※通常のギャラリートークも開催。9～11月の第1・3日曜日 14:00～

今秋も開催！
ミュージアムカフェ

厳選した豆を自家焙煎。
柳津の秋景とともに味わう本格派のコーヒー。
9～11月の土日祝日(予定)

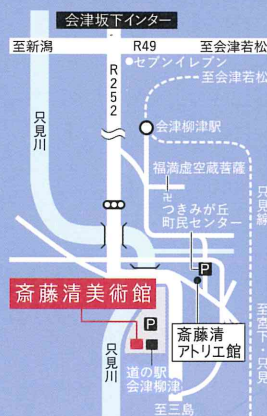
斎藤清美術館
版画教室

木版画だけじゃない。
いろんな版画技法、体験してみませんか。
9月28日(日) 10:00～12:00/13:30～15:30(エンボス)
11月24日(月) 13:00～16:00(ドライポイント)

次回展予告

写真と版画、写真家と画家。その関係がもたらしたもの。
「斎藤清と写真」 2026年1月6日(火)
▶ 3月29日(日)

※各詳細は美術館HP等でご確認ください。



アクセス

- 東北道→磐越道→会津坂下I.C.→R252を只見町方面へ5km(道の駅 会津柳津内)
- 東京駅(東北新幹線)→郡山駅(磐越西線)→会津若松駅(只見線)→会津柳津駅

〒969-7201
福島県河沼郡柳津町柳津字下平乙187
☎0241-42-3630
✉bijutsu@town.yanaizu.fukushima.jp



斎藤清美術館
KIYOSHI SAITO MUSEUM OF ART, YANAIZU